

# 鳥インフル対策・馬事振興・危機管理について



瀧本 孝一 議員  
(新興会)



新消防庁舎の完成予想図

**問** 市内養鶏業の現状と鳥インフルエングザ対策について問う。

**答** 市内には大規模な養鶏場は、採卵鶏・肉用鶏合わせ宮守町には3農場、遠野地区に1農場の4施設があり、約22万3千羽の飼育、4億8千万円の販売高、第一次産業の約6〜7%と推計され、他に小規模

養鶏農家約30軒ある。これら4農場には、県南家畜保健衛生所が電話での聞き取りや、直接立ち入りしての管理状況調査、市の担当職員も直接農場へ出向いて注意喚起・状況確認をしている。更には県南振興局保健福祉環境部と連携を図りながら市民への周知を図り、万が一鳥インフルエ

ンザが発生した場合は、県との調整・指示を仰ぎながら役割を分担し対応にあたる。

**問** 馬の里・競走馬部門の完全民営化移行における馬事振興策について問う。

**答** 競走馬部門完全民営化後の馬事振興策については、地域資源である馬事文化の保全・継承、乗用馬の生産体制の整備、育成調教技術の保持・向上と本州唯一の乗用馬市場の継続発展に努めるとともに、ホースセラピーの充実を図り、各種イベントへの参加や情報発信に取り組み。

また、議員提案の市民参加型の「一口馬主」や「(仮称)馬っこ基金」については、馬事振興計画を策定する際に検討していく。

**問** 危機管理の現状と総合危機管理対策専門部署設置の必要性について問う。

**答** 今日の地方自治体が危機管理の対象とすべき事象は、自然災害・不祥事・情報漏えいなど、複雑多岐にわた

り、総合的観点からこれらの脅威に対する危機管理の体制をいかに整えるべきか、喫緊の課題である。当市における危機管理対策の現状は、災害については消防本部と総務部が中心となり、全庁的にほぼ全職員が何らかの形で対応し、有事の際のシミュレーションをシナリオがない本番さながらの状態を取り組んでいる。想定されている宮城県沖・三陸沖大地震等の後方支援基地としての機能を有する総合防災センター整備を機に、市民の生命財産を守るという使命感を再認識し、消防本部の人材の育成を担当する総務部が中心となって多様な危機管理の取り組みを進め、また平成24年4月を目標に組織改編を考えている中で、危機管理部署の在り方についても課題として議論していく。